

第 2 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会 議事要旨

日時：令和 5 年 2 月 22 日（水） 13:30～15:30

場所：日向市役所 4 階委員会室

■ 出席者

(1) 委員

土手 裕 (宮崎大学工学部教授)
大榮 薫 (宮崎大学工学部准教授)
佐伯 雄一 (宮崎大学農学部教授)
原田 隆典 (宮崎大学工学部名誉教授)
山田 大志 (NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク)
菊田 正光 (美郷町区長会長)
小野 圭一 (美郷町花水流地区区長)
松本 恵喜 (美郷町花水流地区)
小野 和久 (美郷町小川地区)

(2) 事務局

黒木 秀樹 (広域連合 副長)
甲斐 正修 (門川町 環境水道課 課長)
中田 芳樹 (美郷町 町民生活課 主査 (代理))
甲斐 一喜 (諸塚村 住民福祉課 課長)
黒木 治実 (椎葉村 税務住民課 課長)
吉田 健二 (広域連合 事務局長)
田中 美利 (広域連合 局長補佐兼業務第 2 係長)
黒木 裕也 (広域連合 業務第 1 係長)
尾前 貴大 (広域連合 業務第 1 係主査)

(3) コンサルタント

林 正樹 (株式会社建設技術研究所)
和田 崇史 (株式会社建設技術研究所)
池田 勇太 (株式会社建設技術研究所)

(以上、敬称略)

■ 内容

- 1 開会
- 2 あいさつ（委員長）
- 3 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）次期広域最終処分場基本構想（案）について
 - （3）予備調査内容について
 - （4）その他
- 4 閉会

■ 配付資料

- 資料 2-1：第1回建設検討委員会議事要旨
- 資料 2-2：次期広域最終処分場基本構想（案）
- 資料 2-3：次期広域最終処分場基本構想（案）協議事項の抜粋
- 資料 2-4：予備調査内容について
- 参考資料1：最終処分場の関連施設
- 参考資料2：次期広域最終処分場基本構想（案）かわら版

1. 開会

○配布資料の確認

2. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

3. 協議事項

(1) 前回委員会の確認

○事務局より【資料 2-1】に基づき説明。

委員 : 意見なし

(2) 次期広域最終処分場基本構想（案）について

○事務局より【資料 2-2】、【資料 2-3】、【参考資料 1】、【参考資料 2】に基づき説明。

委員 : 事業費の比較は同じ埋立容量で比較を行っているのか。全体的にオープン型を前提とした説明が多いがオープン型を前提としているのか。

事務局 : 同量の埋立容量で検討している。現段階ではオープン型を前提としておらず、次年度の予備調査の内容を踏まえて決定したいと考えている。

委員 : 事業費は今後変動する可能性が十分にある。形式を検討する際は、事業費以外の視点も取り入れるとよい。

委員 : 候補地においてオープン型も被覆型も建設は可能か。

事務局 : オープン型、被覆型のどちらも建設可能であると考えている。

委員 : 最終処分形式を決定するうえで、予備調査の結果をどのように反映するのか。

事務局 : 被覆型処分場の場合、屋根の基礎の深さがコストに影響してくる。また、法面保護の必要性についても地質調査で明らかにしていく。

委員 : 維持管理費は構成市町村が負担するもので、今後の計画検討において重要な指標であると考えている。現段階では、維持管理費の点から被覆型が優位と考えているのか。

事務局 : 今後、精査していくものであり、現段階では優劣はない。

委員 : 都城市の被覆型最終処分場を見学することは可能か。

事務局 : 来年度の実施に向けて検討したい。

委員 : 被覆型最終処分場特有の跡地利用方法はあるのか。

事務局 : 屋根を撤去する場合、オープン型と同様の跡地利用方法となる。屋根を残しながらテニスコートとして利用している事例もある。

委員 : 浸出水処理施設規模はどのように決定したのか。

事務局 : 近隣の気象観測所の降雨データを用いて浸出水発生量シミュレーション

- を行い、その量に応じて浸出水処理施設規模を決定した。
- 委員 : 浸出水処理施設規模は今後変更があるのか。
- 事務局 : 予備調査で現地の降雨データを把握し、見直していく。
- 委員 : 予備調査の何を以って、最終処分形式を決定するのか。
- 事務局 : 建設費に係る市場価格調査、浸出水処理能力に係る気象調査、屋根などの建築物の安全性に係る地質調査結果を総合的に判断して決定する。
- 委員 : 今後の気候変動の影響も考慮して、施設規模は余裕を持った設定とするのがよい。
- 事務局 : 施設規模の設定については、今後詳細に検討していく。
- 委員 : 事業手法別の役割分担の中で施設撤去とあるが、これは何を指すか。
- 事務局 : 管理棟や浸出水処理施設の撤去が該当する。
- 委員 : 周辺地区や下流域への説明を実施していくのか。実施する場合はそのスケジュールも提示できるとよい。
- 事務局 : 来年度以降に実施していく予定である。
- 委員 : 令和5年度9月の基本同意を予定しているのであれば、予備調査において豪雨時のデータを把握することは難しいのではないか。
- 事務局 : 降雨量の調査は通年で実施し、今後の基本計画等で詳細に検討していく。
- 委員 : 基本同意はいつ頃を予定しているか。
- 事務局 : 令和5年度9月頃を想定している。
- 委員 : 令和5年度の住民説明会の対象は花水流地区のみか。他地区の参加も可能か。
- 事務局 : 令和5年度は花水流地区を対象に実施する。他地区の方向けにも、ホームページ等で広報を行うが、参加については今後検討する。
- 委員 : 基本同意の内容について教えてほしい。建設を前提とするものなのか。
- 事務局 : 予備調査で当候補地に次期広域最終処分場が造れるかどうかというのを最終的に確認した上で基本同意に諮っていただくが、その際には将来建設することを受け入れるということに同意した上で、次年度から生活環境影響調査など本格的な調査に入っていくことを諮っていただくのが基本同意であると考えていただきたいと思います。最終的に建設を受け入れるという合意は、令和8年度に建設同意として得たいと考えている。
- 委員 : 予備調査は地権者の許可を得て実施するのか。また、地元や地権者との協議は今後も継続するのか。
- 事務局 : 地権者の許可を得て予備調査を実施する。協議は令和5年度以降も継続していく。
- 委員 : 地域振興策は埋立開始後も実施が可能か。
- 事務局 : 地域振興策に関してははまだ何も決まっていないので、地元との協議内容に

よって決まっていくということである。

基本同意をいただけたらその後から協議を進め、具体化していくという考えである。

- 委員 : 浸出水処理方式の中で重金属類の中にカルシウムが含まれているが誤記であるため、修正すること。
- 委員 : かわら版では「ごみ」という表現は受け取り手が不快に感じる恐れがあるため、表現を改めたほうがよい。
- 委員 : かわら版には被覆施設の施設概要を記載しないのか。
- 事務局 : 基本的な構造はオープン型と被覆型で同様である。今回は主な施設ということで作成している。
- 委員 : 発行頻度はどの程度か。
- 事務局 : 現時点では未定である。調査や計画の進捗に応じて報告するための手段として考えている。
- 委員 : かわら版は A4 で 1 枚の分量で問題ないとする。連合のごみ処理フロー、埋立対象物の説明があってもよいと感じている。
- 委員 : 最終処分場の必要性についても言及できると、読み手が受け入れやすくなると感じる。
- 事務局 : 記載について検討したい。
- 委員 : 発行頻度によって、かわら版のボリュームも決まってくるので検討をお願いしたい。全体的な内容は問題ないと感じるが、写真を多くする等、視覚的にわかりやすくしてほしい。

(3) 予備調査内容について

○事務局より【資料 2-4】に基づき説明。

- 委員 : 予備調査に入るための地元説明では、建設が決定しているということではなくあくまでも建設が可能であるか調査するものであるということ伝えてほしい。
- 委員 : 地権者が県外にいる可能性もあるため、結果等について書面で報告するなど、確実に情報が伝わるようにしてほしい。
- 委員 : 気象調査は 10 月以降の豪雨のデータも把握してほしい。
- 事務局 : 通年で実施し、適宜計画に反映していく。

(4) その他について

○事務局より説明。

- 事務局 : 本日頂いた意見をもとに基本構想を修正する。

4. 閉 会

〔了〕